

ANALISIS MAKNA VERBA *OTOSU* SEBAGAI POLISEMI: KAJIAN LINGUISTIK KOGNITIF

Anugrah Bintang Febriana
1204892

ABSTRAK

Didalam Bahasa Jepang banyak verba yang terdapat makna ganda atau polisemi, salah satunya verba *Otosu*. Didalam pembelajaran bahasa Jepang, pembelajaran verba merupakan hal yang sangat penting. Sejauh ini, diantara kamus yang sudah dipublikasikan, makna dari verba *Otosu* disajikan sebagai kata yang terdapat makna ganda atau berpolisemi. Namun hambatannya, pembelajar harus memilah kembali makna yang terdapat didalam verba *Otosu*. Terlebih lagi, hubungan antarmakna yang ada didalam verba *Otosu* juga tidak dideskripsikan secara jelas. Maka dari itu, penelitian ini bertujuan untuk mencari makna dasar (*kihongi*) dan makna perluasan (*tengi*) yang terdapat didalam verba *Otosu* dengan menggunakan sudut pandang Linguistik Kognitif. Analisis makna perluasan dalam verba *Otosu* ini menggunakan gaya majas yaitu *metafora*, *metonimi* dan *sinekdoke* yang nantinya akan disajikan melalui hubungan struktur antarmakna (*tagi kouzou hyouji*). Lalu, Metode yang digunakan didalam penelitian ini adalah analisis deskriptif, yakni dengan mengumpulkan data yang relevan dari berbagai sumber untuk disusun secara sistematis untuk diklasifikasikan dan dianalisis. Setelah rekapitulasi data dilakukan, didapat duapuluh dua makna yang terdapat didalam verba *Otosu*. Makna dasar dari verba *Otosu* adalah menjatuhkan (Perpindahan posisi atau lepasnya sebuah objek secara cepat dari atas meluncur kebawah yang didukung oleh adanya gravitasi bumi). Sedangkan makna perluasannya adalah menuangkan; membayangi; menyinari; memindahkan data; mengambil alih; menurunkan; berbicara buruk; menimpa; kehilangan; membiarkan kabur; menghapuskan; membersihkan; gagal; keluar; mengalihkan pandangan; membujuk; berpengaruh buruk; menurunkan reputasi; menghabiskan uang; berkecil hati; dan kecewa. Dari hasil analisis hubungan antara makna dasar dan makna perluasan yang mengalami perluasan secara *metafora* berjumlah delapan kata, dan kata meluas secara *metonimi* berjumlah dua belas kata dan kata yang meluas secara *sinekdoke* berjumlah satu kata.

Kata Kunci: Polisemi, Verba, *Otosu*, Linguistik Kognitif

OTOSU AS A POLYSEMYC WORD ANALYSIS: A COGNITIVE LINGUISTICS VIEW

Anugrah Bintang Febriana
1204892

ABSTRACT

In Japanese word, especially verb contains a several meanings or as we known as the polysemic words. One of the them is *Otosu* as the polysemic verbs. To learn Japanese language, verbal comprehension is a crucial matter. The dictionaries were published so far, the meaning of *Otosu* as verb were represented as the polysemic word. But the issues here is the learner have to classified over the meaning of this verb. Furthermore, the meaningful relations of this polysemic verb are not systematically described. Thus, the purpose of this study is to reveal the basic meanings of *Otosu* and its expansion meanings by using Cognitive Linguistics view. And how to relate and describe between the basic meaning and it expansions by using three styles of rethorical expressions such as *metaphor*, *metonymy* and *sinecdоче*, which will be presented in the relationship of its interactions in forms of polysemic words structure. The method of this research is descriptive analysis, by collecting a relevant data from various sources to be systematically arranged, classified and analyzed. After the result of the recapitulation of the data has done, the verb of *Otosu* contain twenty two meanings. And the basic meaning of the *Otosu* is to drop (prepositions or release of an object caused by earth gravitation). Meanwhile, the expansions of the *Otosu* verbs including; to pou; to reflect shadows; to light up; to transfer data; to take over; to lower; to speak badly of; to fall into (hard circumtances); to lose; to let escape; to erase; to clean; to leave out; to cast (one's gaze); to convince; to give bad influence; to lowering (reputation); to spend money (in certain places); to disheartened and last, to dissapointed. And the result of the analysis by relating the basic meaning and its expansions are including the eight meanings of *Otosu* extend *methaporarily*, and the tweleve meanings extend *metoymically*, and one word extend *sinecdochically*.

Keywords: Polysemy, Verbs, *Otosu*, Cognitive Linguistics

多義語としての動詞「落とす」：認知言語学の観点から

アヌグラ・ビンタン・フェブリアナ

1204892

要旨

日本語では、多様な意味を担っている動詞が非常に多い。その一つ本研究で筆者が取り上げる動詞「落とす」である。周知のように、日本語教育において動詞の学習項目は重要になっている。これまで、現在刊行されている日本語辞典の中では動詞「落とす」は多義語として扱われている。実際、学習者は辞典を調べる際には、その語の意味関係を体系的に、明確に言及されていないという問題点が指摘される。そこに踏まえて、本研究の目的は動詞「落とす」の基本義及び転義を考察し、認知言語学の視点から結論付ける。そこで、複数の意味の関連性については、隠喩(メタファー)と換喩(メトニミー)と提喩(シネクドキー)という3つの観点から結論付けている。最後に、意味の関連性は多義構造の表示を通じて指摘する。本研究の方法は記述である。まず、様々な情報源を収集し、体系的に情報の調整し、分類され考察する。考察したところ、動詞「落とす」は22複数の意味を持つ。基本義①落とす(物体が上から重力に従い下に移動する)と結論が出た。その一方、落とすの転義は：②水を流し込む、③影を映る、④照らす、⑤データを移動する、⑥敵を攻め取る、⑦ものを低くする、⑧悪いことを言う、⑨人を苦しい目に合わせる、⑩ものをなくす、⑪逃げ去る、⑫記号・名前・文字を入れ忘れて消す、⑬汚れを取り除く、⑭失敗する、⑮ある組織・団体から姿を抜かす、⑯視線を下に向く、⑰説得する、⑱悪い影響を与える、⑲身分を低くする、⑳よそからきてお金を使っていく、㉑元気をなくす、㉒がっかりする。結論に至るまで、メタファーにーによって拡張した語は⑧、⑨、⑭、⑰、⑱、㉑、㉒であった。次に、メトニミーによって拡張した語は、②、③、④、⑤、⑦、⑩、⑪、⑫、⑬、⑮、⑯、⑳であった。[シネクドキーによって拡張した語は⑥であった。](#)

キーワード：多義語、動詞、落とす、認知言語学

A. はじめに

日本語教育において、周知のように動詞学習は重要な項目になっている。しかし日本語において、多様な意味を担っている動詞が非常に多い。その結果、学習者が動詞の意味を理解することが容易ではないと言えるだろう。現在、刊行されていた辞書の中では、動詞「落とす」は多義語として扱われていた。だが、その語の意味関係を体系的に、明確に言及されていないという問題が指摘した。意味の関連性について、記述する方法としては隠喩、換喩、提喩という三つの比喩、認知言語学の観点から分析を行い、結論づける。以下では動詞「落とす」の先行研究に基づいた分析結果である。

金田一（2002）の先行研究にもとづいて、動詞「落とす」の意味は 21 である。その意味は：①落ちさせる。②注ぐ。③照らす。④視線などを方向に向ける。⑤物の上に影を映る。⑥水を流し込まれる。⑦ついていたものを取り除く。⑧取るべきものを取り損なう。⑨漏らす。⑩持ち物をなくす。⑪なくなるようにする。⑫段落させる。⑬こっそり逃げ去らせる。⑭劣った状態にする。⑮落ちぶれさす。⑯良くない状態、場所に落ちる。⑰敵を打ち破って手に入れる。⑱手入れるようにする。⑲口説いて自分の意を従わせる。⑳動物を殺す。㉑落語などの最後にしゃれなどでしめくくりをする。本辞書には、「落とす」は多義語として示している。更に、動詞「落とす」のそれぞれの複数の意味や役割分かりやすく記述されているが、例文の数があまりにも少ないのである。

その一方、小泉（1996）の先行研究に基づいて、動詞「落とす」の意味は 13 である。その意味は：①上から下へ自然の力で移動させる。②視線・影・光など上に届かせる。③物をなくしてしまう。④付着していたものを取り除く、⑤入っているべき名・記号・文など入れ忘れる。⑥品質・程度・社会的信用などを低くする。⑦試験などで不合格する。⑧獲得しなければならないものを取り損なう。⑨水を流れ込ませたり、出したりする。⑩敵を攻めとる。⑪人を苦しい目に合わせる。⑫卑しい身分に下がる。⑬期待していた事柄がうまくいかなかったのがっかりする。⑭物事に失敗して元気を亡くす。⑮よそからきてお金を使っていく。

本辞書では、動詞「落とす」の例文や役割や意味などを分かりやすく記述されているが、他にある動詞「落とす」の意味説明をあまり言及されていない。

B. 問題提起

本研究では動詞「落とす」の基本義及び転義を考察し、認知言語学の視点から結論付けるということである。そこで、複数の意味の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）と提喩（シネクドキー）という 3つの観点から結論付けている。

C. 先行研究の検討

前述どおり、本稿の考察対象は動詞「落とす」である。動詞「落とす」の意味を記述する先行研究としては日本語基本動詞用法辞典、小泉(1996)、その外には森田(1998)、金田一(2002)、康夫(2003)、などがある。以下では動詞「落とす」の意味を述べる。

1. (基本動詞用法辞典) 保小泉、(1996 : 99-100)

本辞書によると、「落とす」の意味は；①上から下へ自然の力で移動させる。②視線・影・光など上に届かせる。③物をなくしてしまう。④付着していたものを取り除く、⑤入っているべき名・記号・文など入れ忘れる。⑥品質・程度・社会的信用などを低くする。⑦試験などで不合格する。⑧獲得しなければならないものを取り損なう。⑨水を流れ込ませたり、出しだしたりする。⑩敵を攻めとる。⑪人を苦しい目に合わせる。⑫卑しい身分に下がる。⑬期待していた事柄がうまくいかなかったのがっかりする。⑭物事に失敗して元気を亡くす。よそからきてお金を使っていく。

2. (学研現代新国語辞典)、金田一春彦、(2002 : 179)

本辞書によると、動詞「落とす」の意味は：①落ちさせる。②注ぐ。③照らす。④視線などを方向に向ける。⑤物の上に影を映る。⑥メンバーから抜かす。⑦水を流し込まれる。⑧ついていたものを取り除く。⑨取るべきものを取り損なう。⑩漏らす。⑪持ち物をなくす。⑫なくなるようにする。⑬段落させる。⑭こっそり逃げ去らせる。⑮劣った状態にする。⑯落ちぶれさす。⑰良くない状態、場所に落ちる。⑱敵を打ち破って手に入れる。⑲手入れるようにする。⑳口説いて自分の意を従わせる。㉑動物を殺す。㉒落語などの最後にしゃれなどでしめくくりをする。

3. (明鏡国語辞典)、北原康夫、(2003 : 231)

本辞書によると、動詞「落とす」の意味は：①上から下へ物の重みで物を移動させる。②くっついているものを取り除く。③身に着けていたものをなくす。④身を備わったものをなくす。⑤光・視線・などをものの上に注ぐ。⑥含まれているべきものを抜かす。⑦将棋で対戦するとき、強い方がまこを減らす。⑧試験などで、不合格にする。⑨大切な試合を取り逃がす。⑩ひそかに逃がす。⑪腰や肩を低くする。⑫物事の程度を低くする。

- ⑬ (古い言い方) 悪いことを言う。⑭ 良くない状態に立ち至らせる。⑮ 問いつめて白状させる。⑯ 前よりも好ましくない状態や環境などに身を置く。⑰ その人の所有に帰するようになる。⑱ 物事の決まりをつける。⑲ コンピューターでデータのある媒体から他の媒体へ移す。⑳ 城などを攻め取る。
㉑ 柔道などで、気を失わせる。㉒ 落語で、落ち着けて話をしめくくする。

D. 研究方法

本節では研究方法を述べる。町田と靱山 (Sutedi, 2011:188) の理論に踏まえ、多義語の考察に関する方法は三つである。その方法は

1. 意味区分

- a. 語の意味に応じて同義語を探求する。

例:

階段を上がる	=	上る	意①
料理を上がる	=	できる	意②
家に上がる	=	入る	意③
犯人が上がる	=	見つかる	意④

- b. 語の意味に対し、反義語を探求する。

例:

背が高い	↔	背が低い	意①
値段が高い	↔	値段が安い	意②

- c. 語の意味上下関係を観る。

例:

物を置く	→	もの①	意①
私のような者	→	もの②	意②
知るものですか	→	もの③	意③

- d. 他言語のバリエーションを観る。

例: (日本語 → インドネシア語)

網をひく	→	menarik	意①
辞書をひく	→	membuka	意②
ギターをひく	→	memainkan	意③
風邪をひく	→	masuk angin	意④
豆をひく	→	menggiling	意⑤

2. 基本義の認定

- a. アンケート調査

アンケート調査を行い、回答者に提示した意味をどれかが基本義なのかを選択する。または、回答者に基本義に関する作例を書くことである。

- b. 言語的の要素を観る
一般、文中で自由に使用されている場合は基本義として捉える。しかし、文に必要とされる他の要素は基本義とは言えない。
- c. 先行研究の検討
基本義の認定する方法は、関連にあるデータ或いは先行研究や徐庶などを情報源を収集し、検討する。

3. 多義構造の表示

町田と靱山 (Sutedi, 2011:188) による、多義語の意味を記述は3種類の比喩、隠喩 (メタファー)、換喩 (メトニミー)、提喩 (シネクドキー) の観点から考察を行う。なお、比喩の定義は以下の通りである。

メタフォア : 二つの事物・概念何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

メトニミー : 二つの事物の外界における瞬接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の物事・概念を表すという比喩。

シネクドキー : より一般的な意味を形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味を表す形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。

以上、動詞「落とす」の分析は記述方法を用い、その意味の関連性を3種類の比喩、メタファー、メトニミー、シネクドキー、の観点から考察を行う。

E. 研究データ

動詞「落とす」の意味を分析するため、動詞「落とす」に関連ある実例を収集することが必要である。情報源は以下通りである。

1. 日本語基本動詞用法辞典、小泉保、1996
2. 基礎日本語辞典、森田良行、1998
3. 学研現代新国語辞典、金田一春彦、2002
4. 明鏡国語辞典、北原康夫、2003
5. ことわざ慣用句辞典、加藤清秀、1996

6. 日本語・インドネシア語用例辞典、ステディ、2002
7. 日本語インドネシア語辞典、松浦健二、1994
8. (<http://nlb.ninjal.ac.jp/>)
9. (<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)
10. (www.tangorin.com/examples/)

F. 結果と分析

本節では、移動動詞「落とす」の意味として22意味の多義別儀を認め、それら22の多義別儀を記述するとともに、多義語別儀相互間の関係を明らかにする。

1. 「落とす」の別儀1： 物体が上から重力に従い下に移動する

- (1) 子供は2階からおもちゃを落とした。
(小泉、1996:99)
- (2) 花瓶を床に落とす。
(小泉、1996:99)
- (3) 彼らは広島に原子爆弾を落とした。
(<http://tangorin.com/examples/>)

例文(1)と(3)は、物体が上から重力に従い下に移動するという意味を表している。例文(1)では、主語となる人間、子供がものおもちゃを上領域2階から下地面に移動させる。例文(2)では、主体の動作によって花瓶をテーブル(上領域)から床(下領域)に移動させる。例文(3)では、主体となるアメリカ軍隊が、飛行隊から爆弾を下に移動させる。

このように、別儀1は、移動主体が、存在していた空間的に上領域から、何からの事情で、意志性があるか非意志的か、その上領域に留まることが出来ず、重力、自然力(地球上の物体が地球中心に向かって引き付けられる力)に従い、空間的により下領域に移動するものである。

本稿では別儀1が発生の起点となっていると考え、基本義とする。

2. 「落とす」の別儀2：水を流れ込ませたり、流しだしたりする

- (4) 風呂の水を落とす。
(小泉、1996:99)

- (5) 市は川の水を貯水池に落としている。
(小泉、1996:99)

- (6) たまり水を落とすこと。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

さて、この「落とす」の基本義は物体が上から重力に従い下に移動する。一方、別儀(2)は移動主体が上の領域から下の領域までに水を流れ込ませたり、流しだしたりするという意味を表している。別儀(1)と別儀(2)は空間的に瞬接性を用い、手段と目的の関係にあると考え、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 「落とす」の別儀3: 影を移す・影がものの上に届かせる

- (7) 月が水面に影を落とす。
(小泉、1996:99)

- (8) そして、その大群は、移動するごとに川底に大きな影を落とした。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

- (9) 雪の塊が青い影を落としている。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀(2)移動主体が上の領域から下の領域までに水を流れ込ませたり、流しだしたりするという意味を表している。一方、別儀(3)は視線・影・光など物の上に届かせるという意味を表している。つまり、上の領域としては光、下の領域は地面である。光を直線物の上に届かせるが、真ん中にある物対象が妨げることによる、その物体の形に従い、影を映すという状態の変化を表している。よって、別儀(3)は空間的に瞬接性によって、原因結果の関係にあると考え、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

4. 「落とす」の別儀4: 照らす. 光が物の上に届かせる

- (10) 月と庭にその光を落としていた。
(小泉、1996:99)

- (11) 明るい光を地表に落とす。
(金田一、2002:179)

- (12) 明かりを落とした静かな空間。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀(3)は視線・影・光など物の上に届かせる。つまり、上の領域としては光、下の領域は地面である。それに対して、別儀(4)は視線・影・光など

物の上に届かせる。つまり、は上領域（天然資源）は、光（太陽、月、明かり）が直線に下の領域に（つまり物の上）届かせる。別儀（4）は空間的に瞬接性ある資源の移動具体性によって、状態の変化を表し、また原因結果の関係にあると考え、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

5. 「落とす」の別儀5：データを移す

- (13) ハードディスクからフロッピーにデータを落とす。
(康夫、2003：232)
- (14) 以下はビデオカメラから落とした画像です。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)
- (15) 今パソコンからDVDに落とした洋画を（パソコンで）再生してみたいのですが、音声が日本語&英語の両方流れてしまいます。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀（1）は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（5）は、コンピューターでデータのある媒体から他の媒体へ移す。別儀（1）と別儀（5）は近接関係を用い、ある物体が両極間の位置移動させる。出来事が起こった場所とや日時は、その事件と緊密な関係があり、主体の目的と手段を表している。つまり、別儀（5）主体から手段と目的に基づく換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

6. 「落とす」の別儀6：敵を攻め取る

- (16) 東軍は敵の城を落とした。
(小泉、1996：99)
- (17) 城を落とす、要塞を落とす。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)
- (18) 城を奪って敵兵を追い落とすことができる。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

別儀（1）は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（6）ではある人、組織を攻撃で敵を打ち破る目的と手段を表している、すなわち、ある組織が敵を打ち破ることによって手に入るという異なった状態に変化する（落段させる）という意味を表している。別儀（1）と（6）は移動主体の手段と目的の関係があると考えられ、より特殊な意味を表している。つまり別儀（6）は提喩（シネクドキー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

7. 「落とす」の別儀7：ものを低くする

- (19) 列車はスピードを80キロに落とした。
(小泉、1996:99)
- (20) 部長は声を落して言った。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)
- (21) これ以上品質を落とすと、クライアントの信用を失ってしまう。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀(7)は主語となっている人、組織、乗り物が物の品質、程度、数量、社会的信用などを低くする、つまり、程度がそれまでの上の位置から下の位置に低下するという意味を表している。別儀(7)時間的に隣接性を用い、目的と手段を表している。別儀(7)は換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

8. 「落とす」の別儀8：話を低くする

- (22) 話を落とす。
(康夫、2003:232)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。こうして、別儀(1)つまり物体が、存在していた空間的に上の領域から、何からの事情で、意志性があるか非意志的か、その上の領域に留まることが出来ず、重力(地球上の物体が地球中心に向かって引き付けられる力に従い、空間的により下の領域に移動するものである。従って、より具体的な位置移動を表す。それに対して、別儀(8)はあまりにも抽象的なものであり、つまり、その話者の価値観、評価、内容を低くし、話すという意味を表している。別儀(8)は隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

9. 「落とす」の別儀9：人を苦しい目に合わせる

- (23) その不動産会社は老人たちをわなに落とした。
(小泉、1996:99)
- (24) 恋人の死ぬが娘を悲嘆の底に落とす。
(小泉、1996:99)
- (25) そのために、あの一族は罪に落とされ、滅ぼされた。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。つまり物体が、存在していた空間的に上の領域から、何からの事情で、意志性があるか非意志的か、その

上の領域に留まることが出来ず、重力（地球上の物体が地球中心に向かって引き付けられる力に従い、空間的により下の領域に移動するものである。別儀（10）はある事情、事柄で、人、組織が畏、苦境に落とすという意味を表している。別儀（1）と（9）の共通点は状況の変化、状況の移動を表している。つまり、別儀（1）と（9）は隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

10. 「落とす」の別儀10：物をなくしてしまう

(26) 母はデパートで財布を落とした。

(小泉、1996：99)

(27) 定期券を落としたらしい!

(康夫、2003：232)

(28) 命を落とす。

(小泉、1996：99)

別儀（1）は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（10）は主語となっている、人間に動作によって、ある所で物、命をなくしてしまうという非意志な、不注意的な動作を表している。別儀（1）と別儀（10）は空間的に隣接性を用い、原因結果の関係にあると考え、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

11. 「落とす」の別儀11：人を逃げ去る

(29) 女子供を奥州に落とす。

(金田一、2002：179)

別儀（1）と（10）は前述のように、隣接性を用いる。この別儀（11）は主語となっている人はある人に逃げさせるという意味をあらわしている。別儀（11）は空間的に隣接性によって、原因結果の関係にあると考え、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

12. 別儀12：入っているべき名・記号・文など入れ忘れる・消す

(30) 委員会は彼の名前を名簿から落とした。

(小泉、1996：99)

(31) 契約書から重要な条件を落とす。

(小泉、1996：99)

(32) 君は教科書を書き写す時に1語落としてしまった。

(<http://tangorin.com/examples>)

別儀（10）は主語となっている、人間に動作によって、ある所で物、命をなくしてしまうという非意志な、不注意的な動作を表している。別儀（12）では、主語となっている人が、入っているべき名、記号、文など入れ忘れるという非意志な、不注意的な動作を表している。別儀（10）と（12）は関係や共通点があると考えられる。別儀（12）は空間的に瞬接性によって、原因結果の関係にあると考え、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

1 3. 「落とす」の別儀 1 3 : 汚れを取り除く

- (33) 母がズボンから汚れを落とした。
(小泉、1996:99)
- (34) まずお風呂に入って旅の汚れを落としてください。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)
- (35) シャワーを浴びて、その汚い化粧を落とさない。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀（10）は主語となっている、人間に動作によって、ある所で物、命をなくしてしまうという非意志な、不注意的な動作を表している。しかし、この別儀（13）は主語となっている人は自分の意志を表し、付着していたもの、つまり、服、顔など汚れ削減したのであるが、その結果、汚れが取り除くことができたという状態の変化を表している。つまり、別儀（13）換喩（メトニミー）の意味拡張であり、空間的な部分－全体関係に基づく関係にあると考えられる。

1 4. 「落とす」の別儀 1 4 : 失敗する・試験や試合に不合格

- (36) 50点以下の学生を落とす。
(小泉、1996:99)
- (37) 健一は数学や英語の単位を落とした。
(小泉、1996:99)
- (38) 次の選挙で落とされるだろう。
(康夫、2003:232)

別儀（1）は物体が上から重力に従い下に移動する。つまり物体が存在していた空間的に上の領域から、何からの事情で、意志性があるか非意志的か、その上の領域に留まることが出来ず、重力（地球上の物体が地球中心に向かって引き付けられる力）に従い、空間的により下の領域に移動するものである。一方、別儀（14）は主語となっている人が試験など不合格にする、または獲得しなければならないものを取り損なうという意味を表している。別儀（1）はより具体的な

移動を表しているが、一方別儀（14）は終極的な悪い状態に変化するものである。別儀（14）は抽象的な状態変化へ移す、つまり隠喩（メタファー）により、拡張が成り立っていると考えられる。

15. 「落とす」の別儀15：ある組織・団体から姿を抜かす

- (39) メンバーから落とす。
(金田一、2002：179)

前述のように、別儀（1）と（10）は隣接性を用いる。この別儀（15）では主語となっている人が、ある団体、組織から抜かすという意味を表している。つまり、ある人が組織から自分の姿を抜かすと、姿も消えるという近接性、状況の結末になった。つまり、別儀（16）は原因結果の関係にあると考え、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

16. 「落とす」の別儀16：目を下に向く

- (40) 彼女はお見合いの席で、恥ずかしそうに目を落とした。
(加藤、1996：269)
- (41) 写真に目を落としたとき、彼は思わず写真から顔をそむけた。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)
- (42) 一瞬のうちに、彼女の表情が変わり、目を落として、悲しい声で言った。
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀（1）は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（16）は主語となっている人が、ある事情、状況に応じて、視線を下に向くという直後で話者の感情が変化するという状態に結末する。すると、（16）は隣接性を用い、原因結果の関係があると考えている。つまり、別儀（16）は換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

17. 「落とす」の別儀17：説得する

- (43) 口説きを落とす。
(森田、1998：253)
- (44) 人に何かを受け入れるように口説くを落とす。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)
- (45) 彼女は、我々みんなを口説くを落とすことに成功した。
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

別儀（１）物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（１７）は主語となっている人が話し相手に説得するという意味を表している。別儀（１）別儀具体的な位置移動を表しているが、別儀（１７）では、より抽象的なもの、主体の議論、思想、想像力を使い、人の信念を落とすことである。つまり、言葉などの力で何かを落段させる共通点を持つ。別儀（１７）は隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

18. 「落とす」の別儀18：悪い影響を与える

- (46) 父の病気が家庭に暗い影を落とした。
(康夫、2003：321)
- (47) 小さい時に父をなくし、孤児として育ったことが、彼の性格に影を落しているといわれる。(http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/)
- (48) 二人の子供を表面から見ているかぎりでは、とくに問題はなさそうだが、心の内側には父がいないことが、それなりに影を落しているに違いない。
(http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/)

別儀（１８）と（３）と関連性がある。しかし、この「影を落とす」の意味に基づくと、影が他のものに上に現れ、その部分を暗くする意で、何かはその人の将来を暗くさせるような影響を与える。より抽象的な移動性があり、終極的な悪い状態に変化している。メタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

19. 「落とす」の別儀19：身分を低くする

- (49) あいつはヤクザの用心棒に身分を落とした。
(小泉、1996：99)
- (50) 警部までいった男が、大衆食堂のマスターに身を落とすとは。
(http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/)
- (51) それが破綻して、路上生活に身を落とした。
(http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/)

別儀（１）は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀（１９）は主語となっている人、ある事情、事柄による社会的の上の地位から下の地位へ低下するという意味を表している。別儀（１）はより具体的な位置移動を表しているが、それに対して、別儀（１９）はより抽象的な移動、状態の変化を表している。つまり、別儀（１９）は隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

20. 「落とす」の別儀20：よそからきてお金を使っていく

(52) 観光客はお土産屋でお金を落とす。

(小泉、1996:100)

(53) 場所に金を落とす。

(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

(54) それでよく、「ドイツ人旅行者は何週間もいるのに、家から持ってきた缶詰食品を食べていて、おみやげも買わず、地元にちっとも「金を落とさない」などと皮肉を言われる。

(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀(20)は主語となっている人が意志を持ち、ある場所によそお金を使っていくという意味を表している。主語となる人は、ある場所によそお金を使っていくということは、場所と日時には緊密な関係があるため、近接性を持つと考える。つまり、別儀(20)時間的に近接性の関係があり、別儀(20)換喩(メトニミー)の意味拡張であり、原因結果体関係にあると考えられる。

21. 「落とす」の別儀21: 元気を亡くす

(55) 真由美は試験に失敗して気を落としている。

(小泉、1996:100)

(56) 一度ぐらいの失敗で気を落としてはいけない。

(加藤、1996:496)

(57) 彼はいかなる困難にであつても、気を落とすことはない。

(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀(21)は直感的に話者にとって不愉快なものであり、ある事柄、事情によって期待や希望が失われてがっかりするという意味を表している。別儀(1)では、より具体的な地位移動を表している。つまり、物体が存在していた空間的に上の領域から、何からの事情で、その上の領域に留まることが出来ず、重力に従い、空間的により下の領域に移動するものである。一方、別儀(21)ある事柄、事情によって期待や希望が失われてがっかりする。人間の心理状態が変わる。感情から引き起こされる自然な反応である。メタファーによって意味拡張が成り立っていると考える。

22. 「落とす」の別儀22: がっかりする

(58) 父は事業に失敗してこのところ肩を落としている。

(小泉、1996:100)

(59) 不合格と決まりとがっかりと、肩を落とす。

(加藤、1996:496)

(60) がっかり肩を落として帰ることになります。

(<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/>)

別儀(1)は物体が上から重力に従い下に移動する。別儀(22)は主体となる得るもの「肩」など人間の身体部分、あるいは上着のラインの部分移動する。この別儀(22)は期待していた事柄がうまくいかないことによる、力が抜けて、空間的の位置から、重力(つまり、気が失ったり様子、ひどく落胆したり)重力に従い下の位置に移動するものである。別儀(1)ははより具体的な位置移動を表しているが、それに対して、別儀(22)は(身体的な位置の変化)人間の心理状態が変わる。感情から引き起こされる自然な反応である。メタファーによって意味拡張が成り立っている。

以上、考察してきたように、動詞「落とす」が持つ意味を記述し、それから複数意味の関連性について考察した。その結果、「落とす」について22の多義語別儀を認定することができた。「落とす」の基本義としては「物体が上から重力に従い下に移動する」であり、また、動詞「落とす」の転義は21語ということが明らかになった。別儀の関連性についてはメタファーによって拡張した語は⑧、⑨、⑭、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒であった。次に、メトニミーによって拡張した語は、②、③、④、⑤、⑦、⑩、⑪、⑫、⑬、⑮、⑯、㉓であった。シネクドキーによって拡張した語は⑥であった。

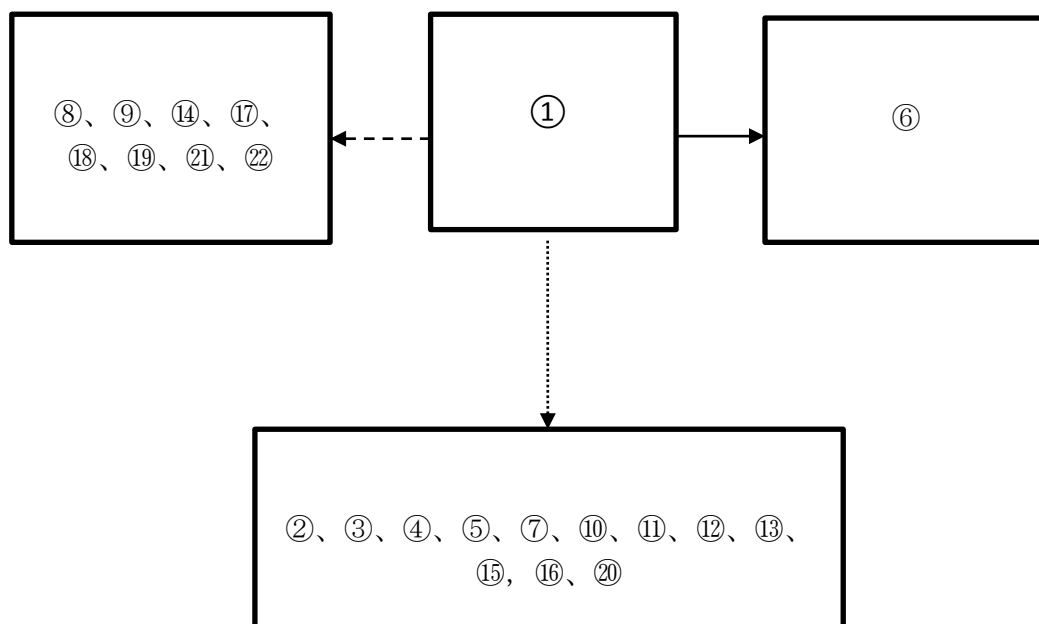


図1. 「落とす」動詞の多義構造



G. 終わりに

以上、本稿では動詞「落とす」が持つ復讐の意味を記述し、それから複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。考察の結果に基づき、動詞「落とす」について2 2多義別儀を結論付けた。意味の関連性については前述通り、比喩（メタファー）、換喩（メトニミー）と提喩（シネクドキ）という3つの比喩の観点から考察を行った。

H. 今後の課題

最後に、今後の課題として、日本語とインドネシア語の「落とす」対象考察についても考察したいと考えている。

I. 参考文献

- Dedi Sutedi.(2011). *Dasar-dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.
_____.(2002). *Kamus Dasar Bahasa Jepang-Indonesia*. Bandung: Humaniora.
加藤清秀 (1996) 『ことわざ慣用句辞典』三省堂
金田一春彦 (2002) 『学研現代新国語辞典』学研教育出版
北原康夫 (2003) 『明鏡国語辞典』大修館書店
小泉保 (1996) 『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
森田良行 (1996) 『基礎日本語辞典』角川書店
(<http://nlb.ninjal.ac.jp/>)
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)
(www.tangorin.com/examples/)

